

自殺希少地域、徳島県旧海部町のコミュニティ特性とは

ー 参与観察とインタビュー調査から ー

立命館大学大学院  
応用人間科学研究科  
臨床心理学領域  
有谷 久美子

自殺予防を進めていく中で注目されているものに、「自殺予防因子」がある。地域コミュニティの自殺予防因子を調査した岡・山内（2012）の研究では、自殺希少地域（徳島県旧海部町）には5つの自殺予防因子があることが分かった。この研究の課題で岡らは、研究対象とした特性以外にも自殺希少地域のコミュニティ特性が観察されていたことを述べている。そこで本研究では、徳島県旧海部町で参与観察とフィールドワークを行い、この地域のコミュニティ特性としてどのような対人関係のとり方や考え方の特徴があるのかを質的な面から明らかにした。また、それらの特徴が自殺予防としてどのように作用し得るのかを考察した。調査の結果、①自分なりの意見や意思を持ち、自己主張をする、②他者を気遣う、③援助行動をする、④みんなの困りごとを解決するときにはみんなで試行錯誤する、⑤それぞれに役割がある、⑥他者との関りが多い、⑦形式ばらない、⑧他所の人への警戒心が薄い⑨居住環境からくる他者との関り方⑩神仏や先祖を大事にするの10個のカテゴリーに分けられる特徴があることがわかった。本研究で明らかになった徳島県旧海部町の特性が、自殺率の低さにどのように関係するののかということについては、コミュニケーションをよくとること、それぞれに役割があること、ソーシャルキャピタルの存在の3つの点からから考察を行った。